

令和5年度

幼児教育における

「社会に開かれたカリキュラム」の実現をめざして

～幼児期に育みたい資質・能力の理解に向けて～

事例集



小学校の先生と共に



保護者と共に



地域の人と共に

子供たちとよりよい未来を！

愛知県幼児教育研究協議会・愛知県教育委員会



- 愛知県幼児教育研究協議会のあゆみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - 幼児期において育みたい資質・能力・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - 幼児教育の基本的な考え方
 - 幼児教育の基本「遊び」は「学び」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

1 保護者等に伝えたい！

- 事例 1 インターネットで発信しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - ・ 保育の「見える化」の推進
 - （ICT、アプリケーション、SNS 等の活用）
- 事例 2 保育ドキュメンテーションを作成しよう・・・・・・・・・・ 9
 - ・ 活動の始まりや広がりの子供の気付きから
 - ・ 活動の中で深まる学びのプロセスを明示
- 事例 3 保育の共通体験をしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - ・ パパママ先生、大募集！
 - ・ ボランティア活動を通して子供の育ちの共通理解を推進！

2 小学校の教育関係者と相互理解を進めたい！

- 事例 4 幼児教育と学校教育に関する認識の共有をしよう（幼小連携）・・・・ 13
 - ・ 研修を通して分かり合う～「遊びを通した学び」を伝える～
- 事例 5 「遊びを通した学びのプロセス」を共通理解しよう（幼小連携）・・・・ 17
 - ・ 互いに伝え合い、学びをつないでいく年間交流計画
- 事例 6 アプローチ期の実践からスタートカリキュラムへつなげよう
（幼小連携）・・・・・・・・ 19
 - ・ 園児と小学校の交流～就学への期待を高める～

3 地域の人や、子供の近くにいる人と子供の育ちを共有したい！

- 事例7 子供の発達と支援について共通理解を深めよう・・・21
- ・ 全ての園職員が子供の発達理解・保護者理解の推進者
- 事例8 地域にある自然の恩恵や知的な財産（施設や人財）を活用しよう・・・23
- ・ 地域の公共施設を活用する
- 事例9 高校生との交流を通して連携・協働しよう（他校種間交流）・・・25
- ・ 高校生と5歳児の交流活動「クッキー作り」

4 地域社会と協働し、子供の学びをつなげたい！

- 事例10 社会のみんなとのつながりを深め、子供の育ちを共有しよう・・・29
- ・ 地域の取組や仕組みを保育に活かし、連携、協働を仕掛けていく
- おわりに・・・37
- 令和4・5年度愛知県幼児教育研究協議会・専門部会委員名簿・・・38



※本事例集で表す「幼小連携・幼小接続」の幼小は、幼稚園、保育所、認定こども園等の施設における「幼児教育」を示した^幼と、小学校教育の^小を示している。

※事例にある **ねらい** について

ねらい
取組のねらい

ねらい
(ねらい) 育てほしい子供の姿
(内容) ねらいに基づき経験してほしいこと

愛知県幼児教育研究協議会のあゆみ

年度	経	過
昭 47	・協議会の設置	
48	・「幼児教育の指針」の作成	
49	・協議題 4・5歳児の教育(保育)内容を中心に	(答申)
50	・協議題 幼児教育と小学校教育のあり方とその連携	(中間報告)
51		(答申)
52	・協議題 今後における幼稚園と保育所の関係について	(報告)
53	・協議題 幼・保の教育(保育)と家庭教育との連携	(中間報告)
54	・協議題 幼稚園・保育所と家庭との連携	(報告)
55	・協議題 幼児教育の充実をめざす指導の在り方	(中間報告)
56		(報告)
57	・協議題 幼児教育に関する今日的課題	(中間報告)
58		(報告)
59	・協議題 幼児の生活実態とその問題点	(報告)
60	・協議題 幼稚園・保育所における望ましいしつけの在り方	(報告)
61	・協議題 家庭の教育力回復のために幼児教育機関の果たす役割	(報告)
62	・協議題 幼児教育のための保育者の資質向上の在り方	(報告)
	・現職教育資料「保育者としてこれだけは」	(発刊)
63	・協議題 人とのかかわりをもつ力の育成	(中間報告)
平元	〃	(報告)
	・現職教育資料「人とのかかわりをもつ力の育成」	(発刊)
2	・協議題 自然との触れ合いや身近な環境とのかかわり合いについて	(中間報告)
3	〃	(報告)
	・現職教育資料「自然との触れ合いや身近な環境とのかかわり合いを持つ力を育てる」	(発刊)
4	・協議題 基本的な生活行動を主体的に身に付けるために	(実態調査)
5	〃	(中間報告)
6	〃	(報告)
	・現職教育資料「基本的な生活行動を主体的に身に付けるために」	(発刊)
7	・協議題 一人一人の幼児の特性や発達の課題に応じた教育・保育の在り方	(実態調査)
8	〃	(中間報告)
9	〃	(報告)
	・現職教育資料「わたしたちの園にふさわしい教育課程・保育計画」	(発刊)
10	・協議題 心豊かな幼児の育成をめざして	(実態調査)
11	〃	(中間報告)
12	〃	(報告)
	・現職教育資料「保育のポイント Q&A50」	(発刊)
13	・協議題 幼児の心を豊かにする幼稚園・保育所と家庭との連携のあり方	(実態調査)
14		(報告)
15	・協議題 子どもたちのすこやかな育ちを支える幼稚園・保育所と小学校の連携の在り方	(実態調査)
16		(報告)
17	・協議題 幼児期における心の教育	(実態調査)
18	—「命」を感じる教育を考える—	(報告)
19	・協議題 協同的な活動を通して、幼児期の「遊び・学び・育ち」を考える	(実態調査)
20		(報告)
21	・協議題 子どもや社会の変化に対応した教育課程・保育課程	(実態調査)
22	—伝え合う力や規範意識の芽生えを培う体験を重視して—	(報告)
23	・協議題 愛知県のこれからの幼児教育の在り方を考える	(報告)
	—幼児教育の指針の策定に向けて—	
24	・協議題 小学校教育を見通した幼児期の教育を考える	(中間報告)
25	—接続期における教育課程・保育課程の編成に向けて—	(報告)
26	・協議題 幼児教育の充実に向けた保育者の資質と専門性の向上について	(中間報告)
27		(報告)
28	・協議題 生涯にわたる学びを支える幼児教育の在り方	(中間報告)
29	—幼児期における「学びに向かう力」の育成を通して—	(報告)
30	・協議題 幼児期の育ちを支える幼稚園・保育所・認定こども園と家庭との連携の在り方について—「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにして—	(報告)
令元	・協議題 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる学びの芽を捉える	(報告)
	—「自然との関わり・生命尊重」の姿に視点を当てて—	
2	・協議題 幼児期の教育における一体的に育まれる資質・能力とは	(中間報告)
3	—子供の具体的な遊びや生活の姿から考える—	(報告)
4	・協議題 幼児教育における「社会に開かれたカリキュラム」の実現をめざして	(中間報告)
5	～幼児期に育みたい資質・能力の理解に向けて～	(報告)

● はじめに

愛知県幼児教育研究協議会では、令和2・3年度の研究「幼児期の教育における一体的に育まれる資質・能力とは」において、子供の具体的な遊びや生活の姿から考える事例集をまとめ、WEB ページで報告している。

今回の令和4・5年度テーマの「社会に開かれたカリキュラムの実現をめざして」は、その続編として見ていただきたい。

『社会に開かれたカリキュラム』の実現とは、よりよい教育を通してよりよい社会を創るという目標を園と社会とが共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育むことを意図する。

よりよい教育を進めるために、その在り方について幼児教育施設と家庭や小学校、地域とで相互理解を図り、組織的かつ計画的に教育・保育活動の質の向上に向けて力を合わせていくことが求められる。

幼児期の教育は、小学校以降の教科を通じた学習と違い、遊びや生活の中で一体的に育んでいくという特性がある。また、幼児期の学びの特性として、「環境を通して行う教育」「五感を通じた体験」「遊びを通し総合的に学ぶ」ことが重要と言われている。

この特性を踏まえて、教育・保育活動を円滑に実践していくために、保育者には質の高い専門性が求められる。子供の姿から発達を理解し、次の育ちを促す手立てを講じていくためにも、研鑽を積むことが必要になる。

幼児教育研究協議会では、長年に渡り研究を重ね、保育者の研修に役立ててほしいという思いで報告書をまとめてきた。今年度の本報告書は、保育者だけでなく、社会の人々にも幼児期の子供の育ちや教育の在り方について理解してもらいたい、というねらいをもって作成している。

幼児期の教育の考え方については、前回報告した（文頭で紹介した）事例集の冒頭で詳しく述べている。次ページに一部省略・抜粋して掲載するが、ぜひ、下記のページにアクセスして全文を御覧いただきたい。



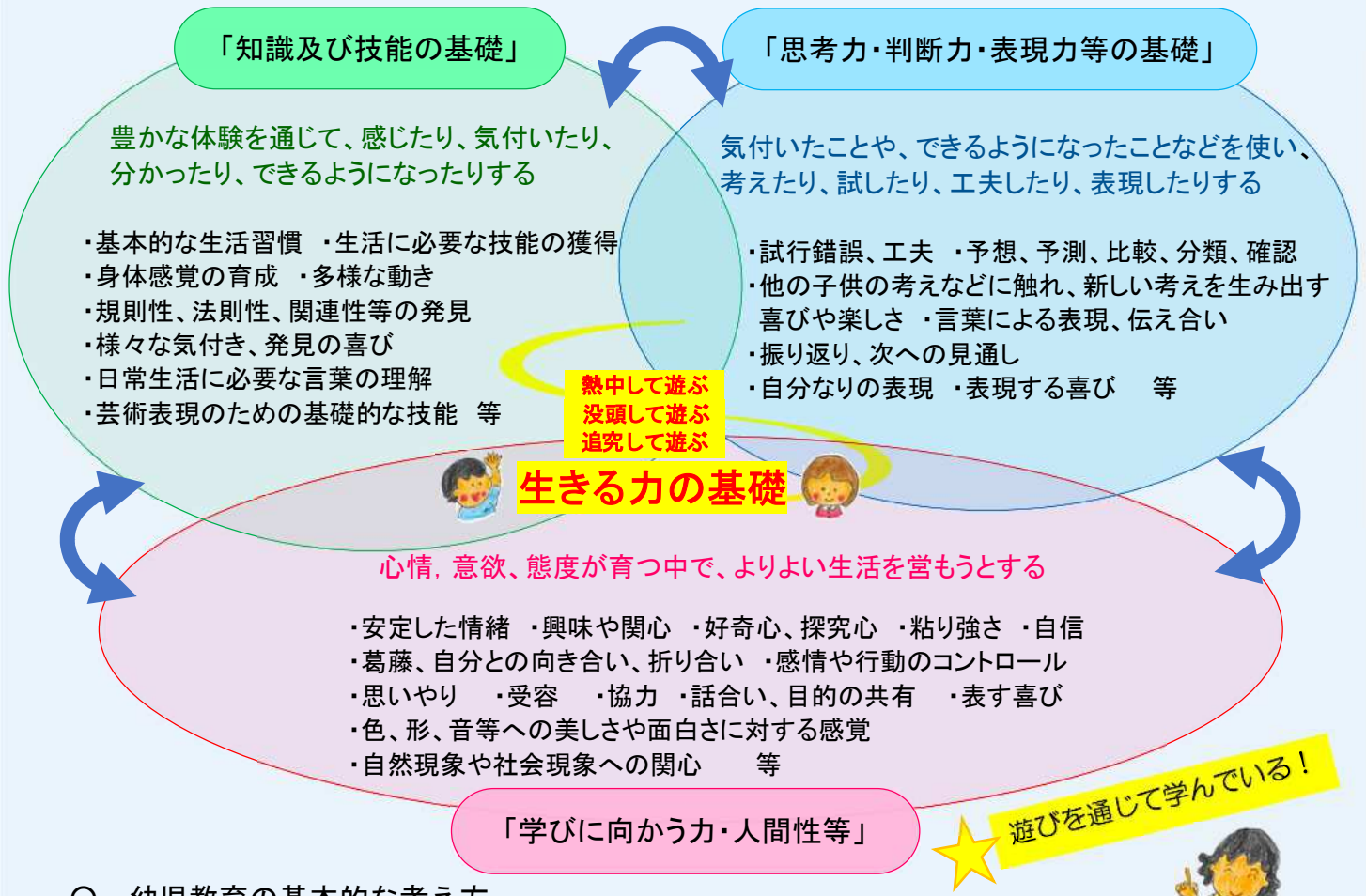
<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/410463.pdf>



育みたい資質・能力は、小学校以降に育む「生きる力」につながります。幼児教育段階では、育みたい資質・能力を、具体的に次ページの3つのように捉えています。

幼児期において育みたい資質・能力

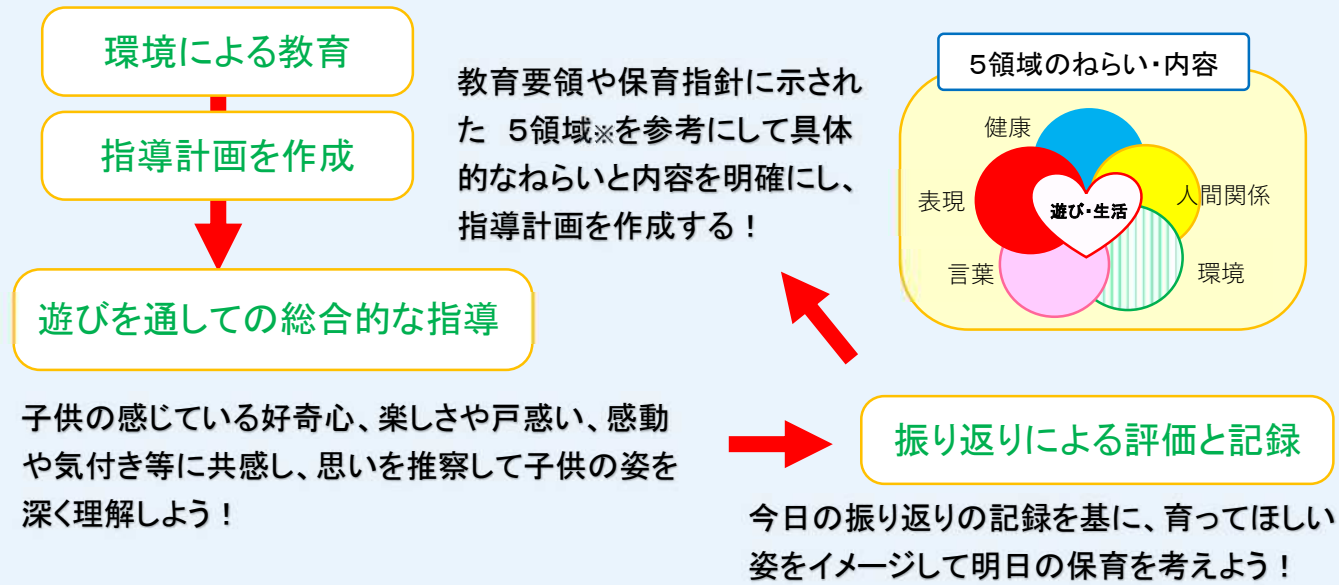
(文部科学省「平成28年3月教育課程部会・幼児教育部会資料」を参考にして作成)



○ 幼児教育の基本的な考え方



幼児期の保育・教育は、生きる力の基礎を培うために、幼児期において育みたい資質・能力を踏まえて、教育課程に基づく指導計画を作成し、実践を積み重ね、評価し、改善を図ります。この一連の流れの好循環を通して、各園の教育活動の質の向上を図っていきましょう。



※ 5領域とは、子供の発達側面から、心身の健康に関する領域「健康」、人との関わりに関する領域「人間関係」、身近な環境との関わりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」としてまとめ、示したものである。

幼児教育の基本 「遊び」は「学び」



子供の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であり、小学校以降の生活や学習の基盤ともなる。

そのため、幼児教育では、子供が没頭し熱中して遊ぶことのできる環境を整え、遊びを通して総合的に指導することを重視している。

幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることを鑑み、幼児期の「遊びを通した学び」の意義や効果を認識する必要がある。

「遊んでいるだけでいいのか」「遊んでばかりいる」など、「遊び」を否定的にとらえるような言葉を聞くことがあるが、幼児期の「遊び」や「子供が遊ぶ姿」について誤解を招くことがないようにしたい。

遊びを通して育っていく子供の姿を、保育者も子供の家族も、小中学校の先生たちも、地域の人たちも、社会のみんなで理解するために、子供が育つ上で大事にしたいこと、一人一人の個性や発達にふさわしい関わり方を、連携・協働して考えていきたい。

※令和4年度愛知県幼児教育研究協議会作成資料から抜粋



本事例集では、次のような事例について具体的に紹介している。各園の保育実践や、他所との連携・協働を進める際に、参考としていただきたい。

【実践例】

- (1) 園から発信する情報によって、相互理解が深まり、価値観の共有が進展する事例。
- (2) 連携、協働によって幼児期の子供の発達の見方や教育方法の在り方・考え方が歩み寄る事例。
- (3) 多忙な中でも、効果的に情報発信できる方法について工夫し、実践する事例。
- (4) 交流活動等、組織的かつ計画的に教育・保育活動を計画・実行し、振り返る中で次への課題を共有する。また、互いのカリキュラム、あるいは地域の連携推進計画の見直しを図る事例。

1 保護者等に伝えたい！

日々の園生活を充実したものにするため、最も重要な協力者は「保護者」と考える。家庭から園へ、園から家庭へ、潤滑な生活のつながりが子供たちの安心感を支え、安定した情緒を保障している。

保護者の温かな子供を愛する気持ちをさらに引き出し、子供の発達に関心を寄せて理解してもらうことや、成長を共に喜び合うことを目指したい。

事例

1

インターネットで発信しよう

- ・保育の「見える化」の推進
(ICT、アプリケーション、SNS等の活用)

ねらい

日々の子供の生活や成長する姿を分かりやすく伝え、保育への理解を深める

「私たちの保育を知ってほしい」～SNSで発信～

園へ足を運べない仕事の忙しい保護者や、遠方に住む祖父母等が、子供の様子を知りたいと思った時に、気軽に園の情報を見ることができるようなのがSNSでの発信である。また、どの園へ我が子を入園させるかを検討する際にも、このような情報は役に立つ。身近で手軽に入手できる情報として、今やインターネットでの園の紹介や教育方針の発信は不可欠と考える。では、具体的にどのような情報を発信することが必要なのだろうか。

本園では、保護者によく使われているSNSを活用して、保育実践の様子や園紹介の動画を配信している。



【子供たちの作品を紹介】



【園での活動の様子を紹介】

カブトムシ博士からオンライン上(リアルタイム)で話を聞く機会をもちました。子供たちは興味津々！



【作品を掲示した環境を紹介】



【遊びの環境を紹介】



色を混ぜたらこんな色になった！色水遊びは発見が一杯です。

ポイント

視覚的に分かりやすく伝える工夫をする。

社会全体に広く理解と共感を得られるよう、園の方針や最新情報など、専門的な知識も含めて分かりやすい発信をする

「保育の専門性を届けたい」～連絡帳アプリで発信～

毎日の保育内容に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「乳児保育の3つの視点」をプラスして、「何が育まれているか」を意識的に保護者に届ける。

〈幼児クラス向けのドキュメンテーション例〉

今日の育ち	健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え
	自然との関わり・生命尊重	数量や図形標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現		

タイトル： 「もったいないばあさんの絵本からやってみよう」

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

夏祭りが終わり、ひと段落。この体験を生かし、今度はフェスタの準備が始まりました。本日のサークルタイムでは、テーマ決めとシンボル決めをしましたが、この題材は少し難しかったようです。「みんなが好きなこと、気になっていることは何ですか？」と質問を変えたところ、「もったいないばあさん」の話がでました。

「もったいないばあさん」の絵本の中にあつた草木染に実際に挑戦しました。その時の様子が伝わる写真を一緒に配信し、子供たちが真剣に取り組む姿を伝えています。“不思議発見！”の体験でした。

〈乳児クラス向けのドキュメンテーション例〉

子どもたちの今日の育ち	身近な人と気持ちが通じ合う	身近な物と関わり、感性が育つ	健やかに伸び伸びと育つ
-------------	---------------	----------------	-------------

タイトル：音が鳴るね

※乳児保育の三つの視点

保育者がクルクル回ったカップを手で「ぱんっ」と止めたり、自分で持って“こんこん”と床やカップ同士を合わせて音を鳴らすと、興味を示し、楽しむ子供の姿が見られました。

音が鳴ると、泣いていた子供も泣き止んで「何の音？」の表情で関心を寄せていました。

ポイント

毎日の活動の様子と、その時芽生えた育ちの意味を保育者の視点も含めて伝える。

SNS やアプリを活用するにあたって・・・

○発信のタイミングや留意点

- 日々の保育で保育者が着目した子供の育ちや作品を、不定期に発信している。平均して、月2回は SNS で外部に情報発信することを目指している。
- 行事の様子は、行事後の達成感だけでなく、経過等も含めて発信している。当日を迎えるまでの子供と大人のストーリーを、葛藤や努力、失敗・成功だけに着目せず、発達や“ここからつながる育ち”を意識して、写真や言葉を選んでいる。
- ドキュメンテーションは毎日作成し、連絡帳アプリで各年齢に発信する。「今日はこんなことを楽しんだのね」と様子を知ってもらうと同時に、保育者が捉えた子供の活動の価値や意味も届けている。

○発信する際に配慮する具体的な点について

- 子供の状況とともに、保育者の願いや思いも伝える
- 遊びを通した学びのプロセスを具体的に伝える
- コメントはなるべく短く、要点を押さえるようにする
- 保育者の働き掛けや、環境の構成の意図についても知らせる
- 配信後は対話等を通して、保護者からの感想や意見を聞くようにする



○ネット上の媒体には十分な配慮と注意が必要！

- コロナ禍を経験し、一気に進んだ ICT 環境とその利用だが、ネット上の媒体という点では十分な注意が必要である。
- 掲載する写真や保育の内容が、誰にでも伝わりやすいものか、不愉快にさせるものではないか、個人情報の取り扱いに問題はないか、綿密な配慮をして準備をする。
- 便利で伝えやすいというメリットと、どんな問題が起きる可能性があるかなどリスクについて、職員間で十分に話し合い、意識向上と事前対策を心掛ける。
- 複数の保育者及び園長等で確認の上、発信する。



配信を見た人の感想

- SNS で、楽しんでいる絵本を紹介した時の保護者からのコメント
「やまぶき組の姉もこの絵本が大好きで、あかね組の妹に必死に読んであげています。
“ぼん！”の所で2人共笑顔になり、私も見ていて癒されます！」
- SNS で、カブトムシ博士（ゲストティーチャー）と交流した時の
地域関係者からのコメント
「あれが、カブトムシの帝王？ヘラクレスオオカブトですか？！すごいですね、大きい！
本物に触れられて良かったですね💖」
- SNS で「夏祭り」の発信をした際の支援センター利用者からのコメント
「園って、季節の行事をきちんとしてくださるのですね。本当に有り難いです💖」
- SNS を見た実習生や就職活動中の学生から伝えられたコメント
「0歳児の暮らしの動画がとても可愛く、これから実習に行く時の参考になった」
「園の目指す保育観が発信の中にも感じられて、自分の挑戦したい保育に近いと思って、
応募した」
- 連絡帳アプリを見た保護者から
（退勤前に職場で見ているので）送迎時に、「『今日は～したの？』『楽しかった？』と園
の先生からの報告を待たずに、子供と会話が弾みます」
- 毎日のドキュメンテーションを見て成長を捉える保護者から
「先週の〇〇の活動はルールが分からない子が多いのかな？と思ったのですが、今週は
しっかり理解してみんなで〇〇を楽しんでいるのですね。うちの子供だけでなく、他の
家庭の子供の様子もよくわかります」

SNS は保護者以外の人でも園の情報をキャッチして、コメントできるので、
「園」「保育」への理解につながりやすいと感じている。

ふりかえり

子供の魅力ある映像やコメントとともに育みたい資質・能力も SNS で発信

本園は、SNS を活用して自分たちから発信し、保護者や地域・小学校等関係者だけでなく、就園前の乳児を始め、入園予定児の保護者等にも実践の様子を届けるよう努めている。SNS での情報発信の利点は、双方向の意見交換ができ、互いにつながりやすいことである。また、写真や映像を中心にした情報は、理解が得やすい。

情報発信の際には、写真や映像とともに、遊びを通して「幼児期に育みたい資質・能力」が育まれていることを、短い言葉で伝えるようにもしている。子供の育ちの共有を進めることで、園の保育への理解も深まっていく。

保育ドキュメンテーションを作成しよう

- ・活動の始まりや広がりや子供の気付きから
- ・活動の中で深まる学びのプロセスを明示

ねらい

- (発信のねらい) 遊びを通して子供に育まれている力を保護者と共通理解する
 (子供の活動のねらい) 気に入った友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう
 (内容) ・水、砂、泥の感触を味わい、繰り返し試して遊ぶ
 ・見立てたり、思い付いたりしたことを言葉にして遊ぶ

本園では、お便りの配付や写真を掲載した掲示物、最近では ICT を活用する機会も増え、アプリを使った配信も進めている。登降園時に挨拶とともに、子供の様子を一言付け加えたりすることも、保護者との信頼関係づくりにつながると捉えている。

子供の姿を伝える時には、具体的な姿を紹介し、そこでどんな学びや育ちをしているかを話すようにしている。家庭と共に充実した保育を進めていくために、指示や決めつけのように受け取られないよう、言葉選びにも配慮している。インターネットでの発信が難しい時もあるので「園だより」「〇〇組つうしん」などの、印刷物にして配付したり、園内にドキュメンテーションとして掲示したりして、生活や学びの様子を伝える工夫もしている。

「水、砂、泥でいっぱい遊んだよ」(4歳児 6月)



【泥の感触を楽しむ姿】

泥んこで作ったごちそう！
 お皿に盛ったり、大きなお団子を作ったり♪たくさんお客さんが来ると忙しいけれど、うれしそうでした！

泥の感触、作る団子の大きさや重さや形等を、夢中に遊ぶ中で、体験を通して知っていきます。お客さんとのやりとりでは、「いらっしやいませ」「ありがとう」など、人との関わりで必要な言葉を自然と身に付けていきます。



【異年齢児で交流する姿】

さくら組さん(3歳児)もお客さんで来てくれましたよ♪

4歳児にとって、3歳児は「小さい子」。優しく言葉を掛けたり、必要なことを教えてあげたり、思いやりの気持ちをもって関わっています。自分がしてもらってうれしかったことを、してあげているのかもしれないね。

ポイント

次第に面白くなっていくプロセスを追いながら、遊びを通して学ぶ様子を伝える。



【考えを出し合っているところ】

大きな山にじょうろで水を流し、川のように流れてくると、「おお、流れた」と大歓声！
水の勢いが増すと面白さも増し、友達と交代しながら繰り返し流していました。

うまく水が流れるまでには、山が崩れたり、水が砂に全部しみ込んだりもしました。その都度、友達と考えを出し合っていました。うまくいった時の達成感、力を合わせてやり遂げた充実感は、心の成長です。



【何度も試す姿】

「どう？出てきた？」
「出てきた、出てきた！水が流れているぞ！」

遊びの中での体験を通して、ものの仕組みや道理に気付いていきます。成功させたいという強い気持ちが、粘り強く取り組む力、あきらめずに挑戦する力につながっていきます。たくましいです。



【葉っぱは身近な自然物】

水たまりで釣りごっこ♪
葉っぱを魚に見立てて・・・

子供たちにとって自然物は身近な学びの道具です。葉っぱの魚はゆらゆら泳ぎます。イメージ豊かに遊びに活かし、遊びの中で、感性や表現力を育てています。釣れた魚は・・・、さあ、どうなったでしょう！？

ふりがえり



子供の育ちについて保護者の理解を進めることが、子供のよりよい園生活につながる

「うちの子は、園でのことを全然話してくれないんです」という保護者の声を聞くことがある。嫌がらずに登園しているし、子供にしつこく聞くのもよくないと思い、結局、分からないままにしているとのこと。そんな話を聞くと、園側がもっと保護者の理解が進むよう、伝えるべきことを伝えなければ、という思いに駆られる。

また、逆に「園に任せているんだから、友達とのケンカのことなど、いちいち言ってこないで」という保護者の言葉に出会ったこともある。

どちらのケースにおいても、子供にとってよりよい園生活にしていくために、園が保護者と力を合わせていくよう工夫をしていかなければならない。

ドキュメンテーションでは、子供の姿とともに育まれる資質・能力を理解しやすい言葉で伝わるよう配慮しながら示し、子供の育ちについて保護者の理解を進めている。

事例

3

保育の共通体験をしよう

- ・パパママ先生、大募集！
- ・ボランティア活動を通して子供の育ちの共通理解を推進！



パパママ先生（ボランティア先生）を募集し、遊びへの参加体験から子供の学びや育ちに対する共通理解を図る

募集しま～す



○パパママ先生の活動

園外保育引率、水遊び、絵本の読み聞かせ、大掃除、誕生会の出し物等

○園の取組

保育の取組や保育目標、子供の育ちを知ってもらうために、お便りや写真を利用している。事前の打ち合わせで、遊びや活動をどのように進めるか、子供への関わり方、保育者の願いを知ってもらうことで、共に育てる環境の構成をしていく。

パパママ先生にはこのように子供と関わってほしい

- ★意欲につなげる
- ★認める・褒める
- ★励ます・自信につなげる
- ★見守る

パパママ先生(ボランティア先生)と一緒に！

○水遊び 3歳児 6・7月 パパママ先生 2名

■ その1 「うまくできないよ」

〈保育者の願い〉

入園して2か月。水着を着ること1つをとっても、服を脱ぐこと、たたむこと、それらの準備に時間を要する。大人がやってしまえば早いところだが、何回か経験していく中で、少しずつ自分でやってみる気持ちが育ってほしい。

〈パパママ先生の姿〉

- ・服がなかなか脱げずに困っているA児の姿を見て、そっと寄り添い手伝ってくれた。
- ・水着を着やすいように整えてくれた。
- ・「上手にたためたね」と認めたり、「もう少しがんばれ！」と励ましたり、「やった！できたじゃん！」と一緒に喜んだりしてくれた。
- ・活動の切り替えがうまくできなくて…「まだ遊びたいんだ！」「水遊びやりたくない」という子供には、ゆっくりじっくり気持ちを聞いて接してくれた。



ポイント

保育者の願いをパパママ先生に伝え、共通理解を図って進める。

■ その2「お花からも色がでるんだね～」

〈保育者の願い〉

水が好きな子、苦手な子も自ら遊びに関わっていくことができるように、小プール・金魚すくい・水鉄砲・色水（食紅）遊び・せんたくごっこ等の、コーナーを用意した。子供たちが「おもしろそう！」「不思議だな」「もっとやってみたい！」など、思わず体が動く、心が動かされる、そんな遊びだしたくなるような環境を大切にしていきたいな。また、楽しいと感じたことに繰り返し取り組んでほしいな。保育者と一緒に安心して、いろいろな遊びに関わっていけるといいな。



【色水遊び】

教材を変えてみよう！
（環境の再構成）



【環境の構成を工夫する保育者】

パパママ先生感想

- 少しずつ遊びグッズを変えたり、増やしたり、プールの外で遊ぶ子のパラソルの位置に気を配ったり、日頃から先生たちは子供が安全に楽しく過ごせるよう、配慮していることが分かりました。
- お手伝いしてほしい子、自分でやりたい子、遊ぼうと誘ってくれる子、少し照れ屋の子、いろいろな子供がいました。
- 水が飛ばない水鉄砲があったので、どうするとよいか検討できるとよいなと思いました。

ポイント

保育者の動きの意図について、パパママ先生の理解を進める。

ふりがえり

集団生活の中での子供の姿や育ちの共通理解を進める

パパママ先生の感想から、保育者の意図を理解してもらえたことや、保育者が気付かなかった環境についての改善点等を知ることができた（連携・協働）。パパママ先生の活動は園長通信に掲載し、全保護者に配付している。実際の様子を知ってもらうことで、パパママ先生に興味をもつ保護者もいる。

園の取組や子供の育ちを実際の保育から感じてもらい、遊びや活動を通して、子供たちがどのようなことを感じていたのか、どのような変化があったのか、保育者はどのように関わっているのかの理解を進めていく。特に、家庭では見ることができない集団生活の中での子供同士の関係づくりや、どのようなやりとりが育ちにつながるのかを園と家庭とで共通理解していくことは、子供の姿から発達を理解し、次の育ちの見通しをもつことにつながる。

2 小学校の教育関係者と相互理解を進めたい！

5歳児から1年生の2年間は“架け橋期”として位置づけられているが、子供の学びは0歳から18歳まで連続している。幼児教育施設は、幼児期の教育と小学校教育の接続はもちろんのこと、さらなる先の展望ももちながら子供を育てることが大切である。

それぞれの発達の時期にふさわしい教育方法に特性はあるが、共通項も多い。次に示した3項目は、幼児期の特性である。基本としてとても大切なことであり、小学校等の教育関係者と共通理解を深めることが重要である。

環境を通して行う教育が基本

幼児期における3つの重要な事項

- ① 乳幼児期にふさわしい生活の展開
- ② 遊びを通しての総合的な指導
- ③ 一人一人の発達の特性に応じた指導

事例

4

幼児教育と学校教育に関する認識の共有をしよう（幼小連携）

- ・研修を通して分かり合う～「遊びを通じた学び」を伝える～

ねらい

幼小の互いの教育を伝え合い、幼児教育の学びを小学校教育につないでいく

年に2回（8月と12月）、幼稚園、保育所、こども園、小学校の関係者が、互いの教育を共有できるよう、幼保小連携交流会を実施し、幼児教育と小学校教育について伝え合う機会としている。

交流会は、幼稚園、保育所、こども園の園長と、5歳児担任、小学校教務主任と1年生担任が参加している。学校区ごとに分かれ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子供の姿の共有を図っている。



【幼保小連携交流会】

幼稚園・保育園

「架け橋期カリキュラム」（一部抜粋）

5歳児 アプローチカリキュラム（1月～3月）	
期目標	一年生になることに喜びや期待を高め、目的や見通しをもって生活や遊びに取り組み、自信をもって行動する。いろいろな人たちとお世話になったことや心や体が大きくなったことなどについて考えあがり、その気持ちをもつ。 幼児と共通の目的に向かって取り組む中で満足感や充実感を味わい、自信をもって行動する。
月	週の指導内容
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の過ごし方について考え、進んで行おうとする。(イ)(ロ) ・正月遊びを通して文字や数字に関心をもったり、遊びに取り入れたいりする。(ハ)(チ)(リ)(ホ) ・予定表を見たり、保育者の話を聞いたりして、一日の生活に見通しをもって過ごす。(イ)(ロ)(ニ)(リ) ・あやとりや伝承遊び等に触れ、友達と工夫して遊ぶ。(ハ)(ヘ)(チ)(リ)



小学校

知多市：アプローチカリキュラム.pdf

みんな なかよし いちねんせい					
大単元	目次	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目
1	1日目	はじめまして、よろしくね 「しずようしきに さんか しょう」	はじめまして、よろしくね 「にやうがくしきに さんか しょう」	はじめまして、よろしくね 「にやうがくしきに さんか しょう」	はじめまして、よろしくね 「にやうがくしきに さんか しょう」
2	2日目	行「入学式に参加する。(ホ)	行「にやうがくしきに さんか しょう(入学式)」学級活動に参加する。(入学式)(ハ)	行「にやうがくしきに さんか しょう(入学式)」学級活動に参加する。(入学式)(ハ)	行「にやうがくしきに さんか しょう(入学式)」学級活動に参加する。(入学式)(ハ)

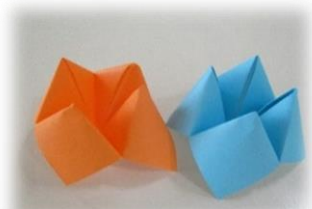


知多市：スタートカリキュラム.pdf



子供の具体的な姿から「遊びを通した学び」を小学校の先生に伝えました。

一人の子が始めた“ぱっくんちょ”作りに友達に興味をもち、折り方を教え合いながら、たくさんのぱっくんちょを作った。



【折り紙の作品：ぱっくんちょ】

ぱっくんちょのお店屋さんをしよう！

看板があるといいよね！

いいね！いいね！小さい組さんと呼ぼうよ。

〈子供の姿〉

〈幼児期の終わりまでに育ってほしい姿〉



高い所に看板があったよ。

- ①家の近くの店屋の看板を目にした経験から、友達に看板作りを提案する。
- ②看板作りに必要な大きい紙と段ボールの筒を見つけてくる。
- ③高い位置に貼ろうと筒を支えたり、高さ確かめたりする。

①社会生活との関わり
言葉による伝え合い

②自立心
健康な心と体

③協同性
道徳性・規範意識の芽生え



そうだ！下に置いたらどう？

- ④筒がぐらついて貼れないため、どうするといいか考える。
- ⑤床に筒を置いて貼ると貼りやすいのではないかと予想し、友達に伝える。
- ⑥友達の考えを聞き、試してみる。

④思考力の芽生え
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

⑤協同性
言葉による伝え合い

⑥思考力の芽生え



「ぱ」ってどう書くの？知っているから書くよ。

- ⑦看板に店屋の名前があると、分かりやすくなると考え、友達に提案する。
- ⑧店屋の名前を書きたいという必要感から、文字を確認したり、聞いたりする。
- ⑨折り紙で飾りを作り、看板に貼る。

⑦社会生活との関わり
言葉による伝え合い

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

⑨豊かな感性と表現

一人の遊びが友達に広がり、新たな遊びを生み出していく。



5歳児と1年生のそれぞれの活動に参加する姿から、「遊びを通した学び」のつながりを、話し合いました。

5歳児の「らいおん組遊園地」と1年生の「おもちゃフェスティバル」に取り組む子供の姿から、幼児期の学びのつながりを伝えた。

〈5歳児〉



【「らいおん組遊園地」】

身近な材料を使い、工夫し、遊びに使う物を作ろうとする。

〈1年生〉



【「おもちゃフェスティバル」】

友達と協力して、遊びや遊びに使う物を工夫して作る。

学びのつながり

学びのつながり



【進んで声掛け】

年下の子に声を掛けたり、関わろうとしたりする。



【進んで触れ合い】

相手の立場を考えて、進んで触れ合い、交流しようとする。

生活や遊びを通して、架け橋期カリキュラムの学びを育んでいく。

1 月 3 週	・自分の考えが取り上げられるうれしさを感じたり、友達と考えが合ったうれしさを感じたりする。
	・遊びのルールや遊び方を友達に伝えたり、一緒に考えたりする。
	・友達の考えやアイデアを認め、一緒に遊びを進める。
	・鬼などを試しながら工夫して作ったり、表現したりして、イメージを広げる。
	・雪や氷などに関心を持ち、触れたり、比べたり、遊びに取り入れたりする。

「架け橋期カリキュラム」(一部抜粋)

ポイント

- ・園は小学校以降の教育を見通しながら、その基盤となる資質・能力を育成していく。
- ・小学校は園で育まれた資質・能力を踏まえて、教育活動を実施する。



「遊びを通した学び」について話し合い、共通の視点をもって子供の姿の共有を図りながら、資質・能力のつながりを確認し合いました。



(小学校教員)

「園では、どのような遊びをしていますか？遊びに使う材料や用具はどのように用意していますか？」



(保育者)

「子供たちは、これまでの体験や自分の知識を取り入れながら、必要なものを考え、身近な材料を探して試しています」



【話し合いの様子】



(小学校教員)

「小学校でも、身近な材料を使って図工で物を作ったり、算数で形を組み合わせていたりしています。園での遊びと似ているところがありますね」



(保育者)

「幼保小交流会では、店屋の看板に文字を書いて貼ってあったり、年下の子に優しく話し掛けたりする姿が見られ、園で育まれてきたことが表れていると感じました」



(小学校教員)

「園での体験が、小学校の姿にもつながっていますね」



初任者研修のキャリア教育（幼保小中連携教育）として、小中学校の先生方に、園の研究を発表して、幼児期の学びを伝えます。

小中学校教員の感想

- ・幼児期は遊びが学びであり、遊びの中で思考したことが、小学校の学びの基盤となっている。
- ・繰り返しやってみてみたいと思えるように、子供の気持ちに寄り添い、環境や援助を工夫している。
- ・遊びを通して多様な方法で環境に関わり、思考を巡らせ、想像力を発揮しながら、環境への関わり方を発見している。
- ・小さな言動も見逃さず、何に興味をもっているかを感じ取り、環境を再構成することが大切である。



【遊びを通して思考を巡らす子供たち】

ふりがえり

保育者と小学校の教員が相互理解を深めることで、子供の学びがつながる

幼児期の教育と小学校教育では学び方に違いがあるが、学んでいる内容には共通点が多い。その違いと共通する内容について、保育者と小学校の教員とが相互理解を深め、互いが子供の学びのつながりを意識しながら、それぞれの教育を見通して充実を図ることが重要である。

そのためにも、カリキュラムについて、園側と小学校側の両方で話し合い、接続を意識したもの（就学先に関わらず、基本的な内容）を作成することが必要になってくる。

「遊びを通じた学びのプロセス」を共通理解しよう(幼小連携)

・互いに伝え合い、学びをつないでいく年間交流計画



小学校・園におけるそれぞれのねらいを明確にした交流を計画し、
幼小の連携を図る
～小学校事例～

○園から小学校に提案された年間交流計画

時期	活動内容	園のねらい
5月	校庭でかけっこ	校庭の広さを感じながら、思い切り走る心地よさを味わう。
7月	プール参観	学校の授業の様子を見て雰囲気を知る。
9月	敬老会参加 (体育館を借用して練習する)	敬老会で使用する舞台の広さや高さに慣れ、安心して当日を迎えられるようにする。 地域の高齢者に自信をもって発表する。
10月	学芸会練習参観	小学生の演技を見ることで感動したり、自分もやってみたいと憧れや期待をもったりする。
11月	小学生との触れ合い	小学生と実際に触れ合うことで身近に感じ、親しみの気持ちをもつ。
1月	校庭で凧揚げ	広い校庭を走り回り、凧揚げを存分に楽しむ。 校庭の広さや小学校の雰囲気を感じ、間近に控えている就学への期待をもつ。
2月	チャレンジジャンプ参観	小学生が縄跳びに挑戦する姿に刺激を受け、自分たちもやってみたいと意欲をもつ。
2月	小学校探検	校内を見学したり、授業の様子を見たりして、小学校への期待をもつ。

交流の前に「園のねらい」を確認し、小学校ではそのねらいを考慮して活動する

【事例 園児の小学校（1年生）参観】2月

〈園のねらい〉

校内を見学したり、授業の様子を見たりして、小学校への期待をもつ。

〈小学校のねらい〉

園児の授業参観を受けることで、憧れの2年生になりたいという気持ちを高める。

〈当日の活動〉

- ・園児は、1年生の各教室に行き、授業を参観する。
- ・休み時間になったところで、教室の中を歩き回って見学する。
- ・園児が以前、応援に行ったチャレンジジャンプ（縄跳び記録会）の感想を書いたお手紙を1年生に渡す。
- ・受け取った1年生がお礼を言う。
- ・園児は廊下に整列し、あいさつをして園にもどる。
- ・1年生は手を振って見送る。



〈小学校における交流事前指導〉

「園児たちが小学校を楽しみにしてくれるよう、自分たちが頑張っているところを見せたい」という気持ちを高める。

〈交流日当日の姿〉

園児を迎え、1年生は大変はりきって授業に臨んだ。



園児たちは、本校のチャレンジジャンプ（縄跳び記録会）を参観に来ていて、小学校参観の折に、チャレンジジャンプの感想を書いたものを1年生に渡してくれた。

1年生の子供たちは、大変うれしそう。憧れの2年生になりたい！



幼小の連携のために

幼小が共に、活動のねらい、つまり育みたい資質・能力を理解しあい、考慮しあうことが重要である。そのために、指導者同士が次のような活動を行う必要がある。いずれの活動についても、時間が取れなくて難しい場合は、資料やまとめの交換でもよい。

ポイント

- 相互理解のため、園は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、小学校は「スタートカリキュラム」について、互いに説明する機会をもつ。
- 活動の前に指導者同士が打ち合わせを行う。交流の場合は、園と小学校がともに、その活動で育みたい資質・能力を明確にし、伝える。特に小学校は、授業の、「目標と評価」を具体的な子供の姿で伝える。
- 活動後に、園児と児童の反応や、感想等の情報共有を行い、評価（活動の価値付け）をする。

ふりかえり

保育者と小学校の教員が相互理解を深め、ねらいを明確にした協働が幼小接続につながる

子供同士の交流を行えば、幼小が「連携」していると言えるわけではない。幼小の架け橋プログラムは、「子供に関わる大人が立場の違いを越えて連携し、架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、個の多様性に配慮したうえですべての子供の学びや生活の基盤を育む」ことを目指している。つまり、保育者や教員といった指導者が相互理解を深め、ねらいを明確にして、それぞれの、あるいは協働の教育活動を計画することが、「連携・接続」を図ることにつながる。

アプローチ期の実践からスタートカリキュラムへつなげよう（幼小連携）

・園児と小学校の交流～就学への期待を高める～

ねらい

（ねらい）小学校の先生と触れ合う中で、学校に親しみをもつ

（内容）小学校で学校の先生と話したり、一緒に活動をしたりして触れ合う

交流を幼小接続の第一歩に～事前の打ち合わせで相互理解～

（5歳児 1月～2月）

〈校長先生との交流〉

1月。5歳児クラスでは卒園の話題とともに、友達と就学に向けて期待する思いを話す姿が見られるようになってきた。

家庭に兄弟がいる子供は、兄弟の様子から、小学校がどんなところで、何をする場所なのか、などのイメージをもっている。しかし、兄弟がいない子供にとって、小学校のイメージは「学校は勉強するところ」というような、漠然としたものだった。

そこで、5歳児クラスで“小学校に行く前に知りたいこと、やってみたいこと”を話し合うことにした。

「小学校の先生って園の先生と違うの？」

「小学校でどんなふうに勉強しているのか見てみたい」

「小学校には窓がいっぱいあるけど、どんな部屋があるのかな」

ポイント

園長が窓口となり、交流計画時に子供たちの興味や関心や交流のねらい、子供に育ちつつある姿を小学校へ伝える。

○小学校にはどんな先生がいる？ ～学校への興味や関心を、触れ合う機会につなげて～

一番初めに子供たちが知りたいことは、「小学校にはどんな先生がいるのか」であった。



「小学校にはどんな先生がいるのかな」


「校長先生がいるよ」

「校長先生って誰？」



「園長先生と同じで、小学校にも園長先生みたいな先生がいるんだよ。その先生のことを学校では校長先生って言うんだよ」



「そうなんだ。どんな先生なんだろうね」  「お話してみたいな」



“校長先生”について予想しながら、友達と話し合う姿が見られた。

○校長先生に聞きたいことをたくさん考えたよ～インタビューカードを作ろう～

子供たちの様子を園長から校長へ知らせ、初めの交流は「校長先生に会いに行く」ことになった。5歳児クラスでは、校長先生に聞きたいことは何か、の相談と準備が始まる。

「校長先生ってなんていう名前なの？」

「好きな食べ物も聞いてみようか？」「好きな色も聞きたい！」



校長先生へ伝えたいことや、校長先生に聞きたいことを紙に書き出し、一人ずつの「インタビューカード」が出来上がった。

○校長先生との触れ合いが、子供にとっての主体的な“学びの場”に・・・

- ・子供が一人ずつ自己紹介
- ・校長先生への質問タイム

「この学校には、子供が全員で何人いますか？」

(校長室の壁に貼ってある、児童の写真のところに行き)

「一緒に数えてみようか」と校長先生。

(「ひと～り」「ふた～り」…一人ずつ写真を指される校長先生のリズムに合わせて、みんなで声を揃えて数える声が弾んでいます)

「よんじゅうい～ち！」「わあ、41人だって！！」

「園よりいっぱいいるね」 数え終わると歓声があがった。



【校長先生とお話】

質問タイムでは、自然に一人ずつ立ち上がって質問が始まる。言葉に詰まって何度もカードを読み返すなど、緊張する姿も見られた。椅子ではなく、子供の目線の高さに座り、笑顔で質問をする子供を見つめ、一つ一つの質問に丁寧に答えてくれる校長先生。その温かさに触れ、次第に子供たちの表情もほぐれていった。

「みんな、いっぱい質問してくれてありがとう。じゃあ、今度は校長先生から聞いてみようかな。皆さんは、小学校でどんなことを勉強するか知っていますか？」

「知ってる、知ってる！」「算数とか字を書くよ」

「そうそう！もう僕、字を書けるよ」「私も家で算数やってる」

校長先生は、小学校ではタブレットを使って勉強していることを教えてくれ、一緒にタブレットで計算ゲームをしてくれた。

「学校の勉強って楽しいね」うれしそうな声が聞こえてきた。



小学校で
こういうのを
使うんだよ

【タブレットを一緒に使う】



ふりかえり

園と小学校の積極的な交流が、園児の就学への期待を高める

社会に開かれたカリキュラムの実現に向けて、園長が小学校関係者との連携や、相互理解を図るコーディネーター的役割を果たすことが求められる。そして、子供の育ちつつある姿やねらいの共通理解、認識の共有ができる機会を増やしていく必要がある。

昨年度までは幼小交流の機会が少なかった本園だが、今回、園長が主導して小学校に働き掛けたことで、「校長先生との交流」が実現し、その後、2回の1年生との交流活動の実施につながった。交流の窓口をつくるのが連携・接続の一步となる。園として積極的に行動したい。

3 地域の人や、子供の近くにいる人と子供の育ちを共有したい！

園の周りには様々な地域のコミュニティがあり、公共施設もある。これらが目指しているのは、地域の活性化であったり、地域住民の生活をさらに豊かにすることであったりする。地域の子供を育むうえで、大切な土壌づくりを目指すのは、園と同様である。

地域の人材・資源と、教育目標や園の願う助力の方法等を共有し、園での遊びは保育者の意図的、計画的な教育であることへの理解を進め、連携・協働して社会に開かれたカリキュラムの実現を目指す。

事例

7

子供の発達と支援について共通理解を深めよう

・全ての園職員が子供の発達理解・保護者理解の推進者

ねらい

- (ねらい) ・夏野菜の世話や収穫等、身近な事象を見たり、考えたりする中で、物の性質や数量等の感覚を豊かにする。
- ・栽培や、栽培したものを食べるなどの体験を通して、給食調理員への感謝の気持ちや、食に対する興味や関心を高める。
- (内容) ・自分たちで世話をしてきた夏野菜を収穫したり食べたりして、においや味、食感を楽しみ、おいしさに気付く。
- ・夏野菜を見たり触れたりする中で、変化や数や形、大きさ、重さ等の違いや性質に気付く。

ナスのヘタの近くに白いところができるのはなぜ？（5歳児 7月）

夏野菜を栽培し、ナスが収穫できる大きさになった。子供たちは、採れた野菜をテラスに並べ、数を数えて、たくさん採れたことを喜び合っている。

ちょうど近くを通り掛った給食調理員に「Nさん、見て！こんなにいっぱい採れたんだよ」と喜んで知らせるA児、B児、C児。ナスを見たNさんが、「このナス、ここが白いね」とヘタと実の境目の部分をさしてつぶやく。「本当だ！色が違うね」「なんで？」「なんで白いんだろうね」「あ！もしかしたらお日様が当たってないのかな」など、考えたことをつぶやく子供たち。「Nさんは知ってるの？」とC児が聞くと、「これはね、ナスがちょっと大きくなったってことなの。夜のうちに実が大きくなると、こうやって白くなるんだよ。太陽に当たると紫色になっちゃうから、朝採れたってことが分かる印なんだよ」と教わり、「へえ～そうなんだ！」「じゃあ白いやつは夜に大きくなったってことなんだね」と、目を丸くして驚いた子供たち。早速並べたナスを一つ一つ見て、成長したナスを探し始めた。



【ナスを並べる】

子供の育ち

自然との関わり・生命尊重

数量や図形などへの関心・感覚

- ・野菜の生長や、野菜が様々な形や大きさになることに気付き、不思議さを感じている。また、収穫数への興味や関心も高まっている。
- ・ナスの生長と朝採れの証拠でもある“ヘタ付近の白い部分”の話は、子供たちにとって観察と収穫の楽しみとなった。

調理する過程を意識したり、作る人に感謝したりできるようになる



園で栽培しているナスであるが、食べるのは苦手とする子も多い。

収穫後のナスについて、「おいしく作ってください」という子供たちからのお願いが、給食調理員へ届いたある日、子供が食べたくなる調理方法を検索し、工夫して作ってくれる給食調理員の姿があった。

「ナスのから揚げ」「ナスの甘辛煮」「蒸しナスの塩昆布あえ」など、普段、ナスを食べない子が「わあ！おいしそう」「これから食べよう」と、ナスから食べだす姿が見られる。



【おいしくナスを食べる子供】



【調理道具にも関心を寄せる】



【調理方法の工夫】

給食調理員によって調理されたものを喜んで食べる子供の姿から、調理過程や道具について、知らせる機会をつくることにした。

「蒸しナスの塩昆布あえ」を食べた日は、蒸し器を披露してもらった。「これは何？」「お鍋が3つくっついてるね」「どうやって使うの？」と、興味津々の子供たち。

給食調理員から、この3段蒸し器を使ってどうやって作ったかを聞くと、「Nさんすごいね」「こうやって作ってくれてたんだね」「いつもおいしく作ってくれてありがとう！」と感謝の言葉が出てきた。

子供の育ち

社会生活との関わり

健康な心と体

自立心

- ・親しみをもつ給食調理員が作る料理という認識と、調理過程やその道具への関心が高まった。
- ・食に関わることへの関心を高めることで、食べること自体への意欲が高まった。

ポイント

子供の食に対する興味や関心をどう高めるか、大人が工夫できることを考える。

ふりがえり

子供に関わる全ての大人の連携・協働が求められる

毎日の保育の要素として、食育に取り組むためには、保育者だけが食育に関わるのではなく、園の職員全体が協力して取り組むことが大切である。

本園では給食調理員のメニューレシピを保護者へ配信している。「家で作ってみたら嫌いな野菜を食べたんです」という声も届く。園で給食調理員へ声を掛ける保護者も多い。

園により、職員構成の人的環境は異なるが、園内でも様々な大人の関わりが考えられる。それぞれの立場で子供たちに寄り添いながら必要な働き掛けをしていくことが必要である。

園内においても、園外においても子供に関わる全ての大人が、子供の育つよりよい教育について共通理解し、連携・協働していくことが求められる。

地域にある自然の恩恵や知的な財産（施設や人財）を活用しよう

・地域の公共施設を活用する

ねらい

- ・公共の施設を訪れ、社会とのつながりを意識する
- ・自分の住んでいるまちの歴史を知り、好きになる

自園の近くには、図書館（2階に郷土資料館）・美術館・駅・消防団等、様々な公共施設がある。その中の図書館・郷土資料館の見学を通し、地域との交流を図る。

「図書館、郷土資料館を探検だ！」

○図書館に出掛ける前に…

- ・図書館ってどんなところ？
- ・図書館で働いている人に聞いてみたいことは？
- ・図書館の2階にも部屋があるよ。何があるのかな？

グループに分かれて話し合い、質問したいことを考えた。



○図書館に到着！

図書館では2グループに分かれ、1グループは館内巡りをし、もう1つのグループは絵本や紙芝居を読んでもらう「おはなし会」に参加した。



【司書の説明を聞く子供たち】

司書の人から図書館のお約束を聞く。また、貸出カードや本を借りる場所も教えてもらう。



静かに歩いていこうね。

図書館に来たことあるかな？

たくさんの本に子供たちの胸が高まります。思わず質問したくなっちゃうね。

どれくらい本がありますか？
壊れた本は誰が直しますか？

どこで本を買ってるの？



【子供たちの質問に答える司書】

「図書館で働く人を司書と言います。司書の仕事は、図書館を案内したり図書館に置く本を選んだり、イベントを考えたりしていますよ。19万冊くらいの本があります。図書館には“ひみつの部屋”があって、そこにも本がたくさんあるのよ～。小学校のまち探検で見ることができるかも！」



“ひみつの部屋”と聞いて子供たちもわくわく！ドキドキ！



○2階の部屋は…郷土資料館

郷土と聞いただけでは分からないけれど、みんなが生まれて育ったところという説明を受け、郷土資料館の見学をした。郷土に関する文書や鬼瓦、人形、お祭りで使った装飾品等が展示されている。

かっこいいね。家の近くにもあったよ！

どうやって作るんだろう？



【経験したことを語り合う子供たち】

こんな形の瓦を見たことがあるかな？
駅のところにも大きな鬼瓦があるよね。

みんなの知っている「おまんこ祭り」で、神馬がつける飾りですね。お米や野菜がたくさんできますように、雨を降らせてください、と神様に飾り馬を納めたのよ。

おまんこ祭りの神馬の飾りだ。
神様にお願いごとをしたんだ。



【展示品に見入る子供たち】

ポイント

- ・園の職員が園周辺の地域の状況（人的・物的環境等）を把握しておく。
- ・子供たちが地域においてどのような生活や関わりをしているのか、などを情報収集し、それらを保育にどう生かすことができるのかを考えていく。
- ・地域とのつながりをもてるよう、園長等管理職が地域の会議等に参加した際に、積極的に働き掛けていく（地域を知ることは、災害等緊急避難時の園児の安全確保にもつながる）。

ふりかえり

「これは何だろう」「もっと知りたいな」様々な気づきが学びにつながる

図書館や郷土資料館の見学を通して、疑問に思ったことや聞いてみたかったことを事前に考えたり、その場で質問したりすることができた。館内で働いている人に直接話を聞くことができるのは、子供たちにとってよい体験となった。そして、自分の住んでいる“まち”に興味や関心をもち、発見や不思議体験をし、「これは何だろう？」という疑問や、「もっと知りたいな！」という思いをもつようになった。

他にも地域と連携し、公共施設を訪れることで、社会でのマナーを覚えたり、仕事に関心や憧れをもったり、自分を助けてくれるサービスがあることを知ったりするなど、様々な体験や経験が学びにつながっている。

高校生との交流を通して連携・協働しよう（他校種間交流）

・高校生と5歳児の交流活動「クッキー作り」

	5歳児	高校生（家庭科）
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児と直接関わることによって、発達の特徴や幼児理解を深める。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人と触れ合い、自分の感情や意思を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して親しみを持ち、人と関わることの楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の方法や環境について自ら学び、保育に主体的に取り組む。

～方法～

- ① 保育者と高校の教員の交流
 - ・幼児教育、高校教育について相互理解を図り、深め合う。
- ② 保育者と高校生の交流
 - ・高校の家庭科、造形表現活動（壁面）の授業を保育者が行う。
- ③ 5歳児と高校生の交流
 - ・高校生の考えた交流内容で、高校生と5歳児の交流を行う。
 - ・高校生が園の生活を体験する。



【5歳児と触れ合う高校生】

～実践の展開～

- ① 保育者と高校の教員の交流（活動前の情報交換）
 - ・保育者と高校の教員が、交流を通して5歳児や高校生に何を体験してほしいのかについて、打ち合わせをする。

5歳児には…

- ・いろいろな人と関わることで愛情を感じたり、感性を豊かにしたりしたい。
- ・「大きくなったら、こんなこともあんなこともできる」という憧れの気持ちをもてるようになってほしい。
- ・自分がしてもらったように、自分より「小さい子」に優しく接するようになってほしい。

高校生には…

- ・実際に5歳児と触れ合うことで、5歳児の発達や、興味や関心を学ばせたい。
- ・5歳児に対して、可愛いという愛着の気持ちを持ち、子供と関わる職業に就きたいという思いをもってもらいたい。
- ・相手のことを思いながらできることを考え、予測し、計画を立て、事前準備をして、理解を深めてもらいたい。

② 保育者と高校生の交流

- ・高校の教員から依頼を受け、保育者が壁面構成についての授業を高校で行う。
- ・前半は、壁面を構成する時の目的（見る人に何を感じてほしいか）や、素材、材料等、使うものによって雰囲気や出来上がりが違うこと等をパワーポイントで具体的に講義した後、課題（クリスマスの壁面）を出し、実際に作成をする。
- ・作成しながら、高校生の質問に答えたり、具体的に指導したりする。

③—1 5歳児と高校生の交流【クッキー作り】

〈交流前の準備活動〉

- ・高校生から交流内容について3つほど（絵本読み聞かせ、リトミック、クッキー作り等）の候補を受け取る。
- ・高校生の考えを尊重して、交流活動を計画する。
- ・安全・衛生面に十分配慮して、計画の詳細を練る。
- ・高校生から依頼を受けた5歳児の氏名を伝え、「5歳児の好きなものアンケート」に答える。

〈交流当日〉

5歳児は、高校の校舎や教室の大きさ、広さ、いろいろな部屋に関心を寄せ、辺りをキョロキョロしながら高校の教員に案内されて教室に行った。あらかじめ、アンケートで5歳児の好きなものを調査していた高校生が、子供一人一人にクッキー作りで着用するエプロンを作って用意してくれていた。



【クッキー作りの準備開始！】



【手作りエプロン】

高校生が、緊張した面持ちの5歳児一人ずつにエプロンを着せてくれた。そして、優しく言葉を掛けてくれながら、一緒に手を洗い、クッキー作りが始まった。最初は表情が硬かった5歳児も「こうやって押すと柔らかくなるからやってみて」という、高校生の優しい対応に安心し、笑顔で生地をこねていた。そして、教えてもらいながら、型が取れるように平らに伸ばした。



「これ(型抜き)で好きな形を作ってね」「きれいにできたね」などと、高校生に褒められて一緒に作業をしていくうちに5歳児の緊張もほぐれ、少しずつ笑顔になり、言葉を交わすようになった。型抜きした生地をオーブンに入れ、焼いている時には、「中が赤いね」「熱いから触らないでね」「いい匂いがしてきたね」「もう、焼けたかな」「茶色くなってきたね」と、会話はずみ、一緒にオーブンの中をのぞき込んだ。



【一緒にオーブンを眺める】



【会話が増える】

←【作業が進むにつれて笑顔が増す5歳児】

焼けたクッキーをビニール袋に詰め、高校生がデコレーションした紙袋に入れてもらうと、5歳児はとてうれしそうであった。お別れをする時には、すっかり打ち解けて、高校生に抱きついたり身をゆだねたりして、親しみの気持ちを表した。そして、高校生にプレゼントされたエプロンとクッキーを大事に家に持ち帰った。「家庭でもエプロンを身に着けて、喜んで家の手伝いをするようになった」と保護者が教えてくれた。5歳児にとって、高校生との触れ合いは、他年齢の人と関わる貴重な体験となった。



【協力してやり遂げた！】



【デコレーションされた紙袋】

〈交流を終えて〉

高校の45分という短い授業時間の中ではあったが、一緒に同じ目的(クッキー作り)をもって活動したことは5歳児にとっても、高校生にとっても距離を縮めることになった。5歳児は、家庭でも高校生からもらったエプロンを鏡の前で身に着けてポーズを決め、「お母さん、僕はスーパーお手伝いマン、何かお手伝いすることない？」と、洗濯物を畳んだり掃除機をかけたりして喜んだ。

優しくしてもらふことの喜びや、うれしさを十分に味わうという経験は、人の愛情を感じることにつながる。愛されていると感じられることで、人にも優しく接していこうとする気持ちが育つだろう。

高校生のアンケートには、「5歳児なりの考え方がある」「発想力がすごい」という感想があった。高校生にとっても5歳児との直接体験が、大きな学びにつながっていることが分かった。



【交流が家での手伝いにもつながった】

高校生アンケートより

- ・とても楽しく充実した時間でした。園の子が「お母さんにあげる」と言って、ハートの形のクッキーを作っていました。5歳児には5歳児なりの考え方があるって、私たちと違う感性をもっていて可愛かったです。
- ・私たちが当たり前に行えることが、園の子には難しく、注意して見守っていく必要がありました。最後には心を開いてもらえたように感じました。
- ・園の子と関わって、あらためて保育者の大変さや楽しさを知ることができました。
- ・クッキーの型を使わず、自分で形を考えていて、発想力がすごいと思いました。
- ・普段、授業で学んでいることを実践するということは難しかったけれど、実践するってすごく大切だなと思いました。
- ・一緒に作業することで、5歳児たちがどのくらい器用に手を動かして、どのくらい動物や形を知っているのかが分かりました。

③—2 5歳児と高校生の交流【園での遊び】

〈5歳児の様子〉

- ・初めて会う高校生に戸惑うが、時間が経つうちに打ち解け、一緒に園で飼っているウサギを見たり、ままごとや戸外での遊び、製作等を楽しんだりするようになった。
- ・慣れてくると、自分から高校生に作ったものを見せ、「これ見て。こうすると動くんだよ」と教えたり、「こっちに来て。一緒に遊ぼう」と親しみの気持ちをもって接した。
- ・一緒に遊んでもらい、うれしさや喜びを感じていた。



【親しみをもって関わる】

〈高校生の様子〉

- ・幼児期の子供と触れ合うことがなく、言葉を掛けようとするが、5歳児も緊張しているので、どのように関わってよいのか戸惑い、慣れるまでに時間がかかった。



【一緒に遊ぶ】



【関わり方がわかる】

- 互いに緊張がほぐれてくると、一緒に遊ぶ中で、5歳児の発達や環境の構成、保育者の言葉の掛け方等、様々なことに気付いた。



【一緒に遊ぶ中で幼児理解を深める】



【いろいろな遊びができる環境になっていることに気付く】

5歳児と高校生の交流を通しての育ちや学び

5歳児たちは、高校生（人）の優しさを感じて

高校生は、5歳児の目の高さ（目線）に合わせて

ポイント

5歳児と高校生、互いの育ちや学びを確認する。

5歳児の育ち	高校生の学び
<ul style="list-style-type: none"> • 初めは、緊張したり、戸惑ったりしながらも、様々な人と出会い、工夫したり、協力したりして、一緒に活動する楽しさを味わう中で、親しみや関わりを深め、愛情や信頼感をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 5歳児と直接関わることで、「小さい子」に愛情をもち、5歳児の発達の特性や幼児への理解を深めることができた。 • 体験を通して、保育の方法や保育の環境について自ら学ぶ姿勢が育った。

ふりかえり



学校種、施設種を越えた交流は、関わる全ての人の学びにつながる

少人数の園では、どうしても関わる人が限られる。その上、コロナ禍では様々な行事や交流の制限があった。そのため、保育者は、近隣の保育所、小学校との交流の他に地域の人々と継続的な交流の場を広げたいと願っていた。高校の教員と知り合うきっかけがあり、保育者と教員の出会いを子供の生活に生かしたいと考えたところ、同じように、高校の教員も高校生が園の子供に直接関われる機会を望んでいた。保育者と高校の教員が交流を深め、段階を踏まえて5歳児と高校生が交流できるよう計画を立て、はじめの一步を踏み出すことにした。

交流をきっかけにして、5歳児にも高校生にも、それぞれの成長が見られ、「社会に開かれたカリキュラム」の実現の第一歩となることが分かった。

その後、高校生との交流をいろいろな園でも行えるように、実践例として情報提供したことで、園での子供の生活を知る園訪問、高校生の知識を生かすICT交流等、様々な交流が始まりつつある。

園の子供と高校生、互いの交流の目的が達成されるためには、事前に大人同士が話し合い、計画的に継続していくことが必要である。

そして、幼稚園、保育所、こども園は、幼児期の教育への理解者を増やすために、積極的にアプローチしていくことが大切である。相手側にもメリットがあることで、交流活動は継続していくと考える。

4 地域社会と協働し、子供の学びをつなげたい！

地域の人が園の子供たちに関心を寄せ、関わりをもつきっかけを園が積極的に計画し、温かい助力やちょうどよい支援を得られるよう情報発信や依頼事項を分かりやすく伝える努力を積み重ねることが大切である。そして、地域との協働による学びが、園のカリキュラムに位置づけられ、互いにとって必要な経験内容として根付くことが大切である。

事例

10

社会のみんなとのつながりを深め、子供の育ちを共有しよう

- ・地域の取組や仕組みを保育に活かし、
連携、協働を仕掛けていく

5歳児 9月 育てたい姿



(ねらい) 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたり試したりして遊びや生活に取り入れようとする。

(内容) 地域の資源を活かした活動

地域の環境保全会が育てたコスモス畑へ出掛け、コスモスを間近で見たり触れたり、においをかいだり摘んだりする。

サツマイモ収穫後の園の畑に、次に栽培する物をクラスで話し合う中で、「コスモスを育てたい」という意見がでた。本園のこの地区では、休耕している田や畑にコスモスの種をまいて、広大な一面のコスモス畑を愛でてもらおうといった取組が行われている。子供たちにも、風に揺れるコスモスの美しさはすっかりおなじみで、自分の園の畑でも育てたいという意見に、みんなが賛成した。



【コスモス畑】

栽培するには、時期が遅く、担任は迷いながらも、子供たちの思いをかなえたいと一緒に育て方を絵本や図鑑で調べたり、家庭で子供が父親とインターネットで調べた情報を集めたりした。そのうち一人の子供が「サツマイモの時みたいに、「コスモスの先生」に聞いてみればいいじゃん」と言い、聞きたいことをクラスで書き出し始めた。

そこで、コスモス畑に取り組む地域の人に、『コスモスを育てたい子供の熱い思い』や『コスモス栽培を通してのねらいや子供に期待する育ち』について話をし、協力をお願いすると、快く引き受けてくれた。

子供たちの質問

- ・今から種まきして咲きますか？
- ・太陽の光は、いりますか？
- ・どうやって種をまきますか？
- ・トラクターがないけど、どうしたらいいですか？

地域の人への質問タイム



地域の人への応答

- ・おじさんたちの畑は8月に種をまくよ。背が低く咲くんじゃないかな？
- ・水も太陽の光も肥料もいるね
- ・おじさんたちは、トラクターで種まきするよ
- ・みんなの手で種と土をかき混ぜたらいいよ

困ったことがあったら、いつでも相談にのるよ

9月に畑にコスモスの種をまいた。10月下旬になり、「コスモスが寒くてかわいそう」と子供から声があがった。子供たちはコスモスが寒くないようにどうすれば良いかを考え、自分たちの考えた形のビニールハウスを地域の人に手伝ってもらいながら作ることにした。

子供たちはサツマイモを育てた時のマルチ※を思い出し、かまぼこ状にビニールをかける形と、コスモスが生長した時に頭がつかえないように筒状にし、周りを囲うだけの形を考えた。土が固くなっており、ビニールハウスの支柱を立てるのは重労働で「そっち、しっかり持っててね。せーの」と友達と協力しながら立てたり、「コスモスのプロ！ここがなかなか刺さらないんだけど、どうしたらいいですか？」と地域の人に尋ね、木づちで打ってもらったりした。そして、全部被せ終わると「やった！完成！」「大変だったけど、これで大丈夫だね」と喜んだ。

※マルチ
畑の畝を覆うフィルム状の資材

自分たちが考えたビニールハウス作り



作業の後、地域の人が「『コスモスが寒くてかわいそう』だなんて、コスモスの気持ちを自分に置き換えて考えているんだね」

「筒状のビニールハウスにしなくても、コスモスが伸びてハウスにぶつかることはないんだけどね。でも、せっかく子供たちが考えたから、活かしてあげたいもんね」と話された。



この時期の子供たちは、自分が大切に思う対象（ここではコスモス）に対し、自分のことのように感じ、そのことを友達と伝え合うことで、自分たちにできることは何かと考え、行動に移そうとする育ちの姿が見られる。【自立心】

自分たちがやりたいと思ったことの実現を支える保育者の姿勢と同じように、地域の人々も、子供たちの考えを尊重してくれたことに、子供たちに願う育ちを理解してもらえた手応えを感じた。

ポイント

地域の人との協働で理解を得られた子供の育ちと育てたい姿を確認しながら進める。



地域の人との関わりや子供の取組の過程や様子を写真やイラストを用いて、保育ドキュメンテーションを作成し、園内研修を行った。

その中で、「コスモスを育てたいという思いから、自ら調べたり身近な人に聞いたりして、積極的に動いて分かろうとしている」「自分たちの力で何とかしようと、一生懸命考えている。これは、自立心の育ちではないか」「自分とは違う、友達の意見を聞いて悩んだり考え直したりもしている。思考力の芽生えだと思う」と、子供の姿から捉えたことを伝え合った。

ドキュメンテーションには

- 園の畑にコスモスの種まきをした後、皆で地域のコスモス畑を見に行き、きれいに咲いていたコスモスを摘ませてもらった様子。
- 花を園に持ち帰り水に差して飾っていたものの1週間余りで萎れてしまった経験から、再度いただいたコスモスの水を毎日変えたり、絵を描いたり、押し花にしたりしてそれぞれの方法できれいなコスモスを長く楽しめるようにしていた様子。
- 押し花作りが皆に広まり、いろいろな形や色の台紙に貼ってコースターやしおりを作った様子等、子供たちの思いや取組の経過が伝わるように分かりやすく示した。【コースター、しおり】



保護者へ

コスモスの栽培について、家庭でも話題にしてもらえよう、友達と一緒に育て方を調べたり、地域の人アドバイスを受けて、試行錯誤したりしている子供たちの姿や、コスモスを育てようと活動する中で、思いやりのある温かな心が育まれていることを伝えた。

ポイント

取組の過程と具体的な子供の育ちの姿を保護者や地域の人に明確に示す工夫をする。

ドキュメンテーション「コスモスの栽培から作品作りの過程」



毎年11月に開催される地域の文化展で、子供の作ったコースターやしおりとともに、子供のコスモス栽培の保育ドキュメンテーションを掲示した。

文化展を見に来た地域の人たちは、「コスモス畑のコスモスかね？みんなそれぞれうまいこと作っとるな」「いろいろ考えてやっとるんだなあ。子供ってすごいなあ」「先生、また手伝ってほしいことがあったら、いつでも言ってくれんよ」と、言葉を掛けてくれた。また、文化展を見に行った子供が多く、「知らないおじいちゃんに『きれいだね』って褒めてもらったよ」と、うれしそうに報告してくれた。

地域の文化展

ドキュメンテーション

子供の作品
コスモスの押し花
コースター・しおり



直接、子供たちに関わってくれた人だけではなく、保護者も含めて、広く地域の人に、子供たちのコスモスの栽培からコースター作りまでの過程を見てもらうことで、子供たちの思いや発想、それを支える保育者の姿や協力してくれた人々の温かさが伝わった。子供たちにとっても、保護者や地域の人にとっても、認められるうれしさ・役に立つ喜び等、協働して多くのものを得ることができた。

12月、コスモスが満開になり、自分たちの育てたコスモスを使って押し花やコースターを作ることを楽しみにしていたが、思い掛けず雪が降り、コスモスが雪枯れしてしまった。子供たちはとてもがっかりしたが、「きれいな花だけ採って押し花にしよう」というA児の言葉に、他児も「仕方ないもんね」と言って押し花を作った。しかし、落胆した気持ちは晴れない様子だった。



【きれいな花を選んで摘み取る子供たち】



【押し花作りに取り組む】

コスモスが枯れてしまい残念だったが、保育者は地域の人への感謝の気持ちを伝えていきたいと思い、絵本の「ライフ」を読んだ。

※絵本は、「花が大好きだったおじいさんが亡くなって、元気をなくしたおばあさんがいた。でも、おじいさんが育てた花の種をいろんな人がもらっていき育てたので、次の春に町いっぱいには花が咲き誇った。その様子を見て、おばあさんは元気を取り戻した」というお話。

絵本「Life ライフ」を読み聞かせると・・・



【採ってきたコスモスの種を集める】

読み終わると、子供たちは、おばあさんはうれしくなって、おじいさんのことを思い出しているのではないかと話していた。そして、自分たちのコスモスも種を採ることができそうということに気付いた。「そうだ！コスモスのプロに種をプレゼントしたら？そしたら、一緒に育てたこととか、思い出してくれるかも」と、さっそく種を採りに行った。



【枯れた花から種を採る】



【コスモスの種は細長い。形状にも関心を寄せる】

コスモスの種を採りながら 様々な思いを巡らす子供たち

「年中さん（4歳児）もコスモスを育てたいって言うかも」
 「もう一回育てたいよね。小学校のどこだったら種まきできるかな？」
 「小学校の先生に聞いたらいいんじゃない？」と話していた。

子供の育ち

コスモスが雪枯れして落胆した子供たちの気持ちと、絵本「ライフ」のおばあさんの気持ちが重なった。子供たちは、町の人々の優しさや温かい心を感じとり、「自分たちも感謝の気持ちを伝えたい」「一緒に栽培をしたことを覚えていてほしい」「またコスモスを咲かせたい」という思いが再燃した。間接的ではあるが、絵本のストーリーが子供たちの心を揺さぶり、体験が、次の行動へとつながった。自分たちで大切に育てたコスモスの種だからこそ、こうした思いが芽生えた。

地域の人には

自分たちも感謝の
気持ちを伝えたい

一緒に栽培したことを
覚えていてほしい

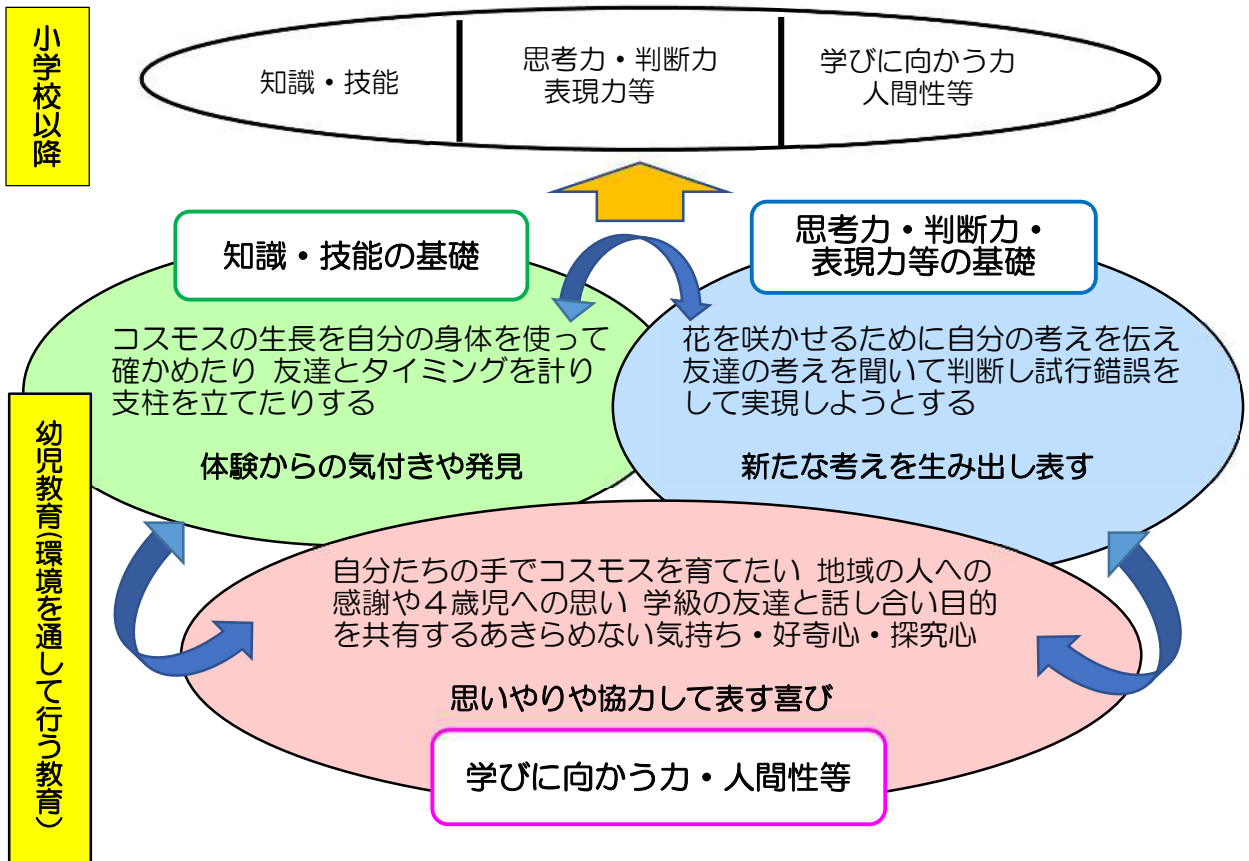


4歳児には

コスモスの種と育て方を
描いたノートに、思いを
託して渡す。

また、コスモスを咲かせたい！

園では時期が遅く、雪枯れしてしまっただが、子供の心に芽生えた、“もう一度コスモスを育てたい”という思いを小学校へつなげるために、これまでの過程で育ちつつある姿を三つの資質・能力の視点から捉え直した。



保育ドキュメンテーションを活用して、小学校の教員と意見交換の機会をつくった。育ちの視点で共通理解が得られるように、三つの資質・能力に結び付けて伝えることを意識し、具体的な子供の学びの姿を通して伝えた。

小学校の教員からは、「遊びの中で、小学校教育につながるいろいろな力が育っているということが分かった」「コスモス栽培の経験を、生活科の授業でも活かしていきたい」などの意見が出た。

この後、コスモスの種を持って小学校へ出向き「もう一度コスモスを育てたいので、学校で育ててもいいですか?」と尋ねた。校長先生に「悔しかったんだよね。1年生になったら育てようね」と言ってもらえ、うれしさに目を輝かせた子供は、ポケットから、大切に小袋に入れていた種を出し「お願いします」と渡した。



もう一度コスモスを育てたい思いをつなげる

ポイント

子供の育ちを共通理解し、学びにつなげるカリキュラムを小学校教員と共に考える。

実践を通しての成果

園の子供・・・ 地域やいろいろな人と直接関わることで、親しみの気持ちが膨らみ、子供なりの地域への愛着が生まれた。

地域の人
保護者・・・ 子供と直接関わることや保育ドキュメンテーションを通して、幼児理解が深まり、子供たちの心強い応援団となって、成長を共に喜び合うことができた。

保育者・・・ 子供の思いや心情を読み取ろうとする意識が高まり、子供の見方が深まった。遊びの中で、今、している経験からどのような力が育とうとしているのかを資質・能力に関連付けながら捉えるようになってきた。

小学校・・・ 幼児期の終わりまでに育ててほしい姿を共有しながら、子供の育ちを幼児期に育みたい資質・能力の視点も意識して分かりやすく伝えたことで、幼児教育が小学校以降の学習の基盤となることへの理解につながった。



社会に開かれたカリキュラムの実現に向けて



- 地域の様々な資源を計画的・意図的に活用できるように教育課程に位置づける。
- 子供に育てたい姿（地域の人との関わりや地域の自然環境を利用することを通して、地域の人と子供が互いに親交を深め、次世代の担い手として地域愛や地域の人とのつながりを育てる）を明確にし、職員間で共通理解する。
- 園の保育者は、地域の人的・物的資源や環境を発掘し、発達の時期を捉えて、子供たちにタイミング良く出会わせるコーディネーター的役割を果たす。
- 目で見ても分かりやすい掲示や多様な人に発信する場等、幼児教育の発信の工夫をする。
 - * 子供の思いの実現のために、必要な情報を積極的に収集し、保育に取り入れ、子供の思いを直接伝える機会をつくる。
 - * 保護者や地域の人に幼児教育への理解が得られるよう、幼児理解に基づく保育者の願いに沿った関わりと、環境の構成や子供の具体的な姿で示す発信の方法を工夫する。
 - * 小学校関係者へのアプローチの仕方を工夫する。（園長と校長・保育者と教員・子供と小学校関係者等）

● おわりに

「社会に開かれた教育課程」は、平成 29 年 3 月の学習指導要領・幼稚園教育要領改訂のキーワードである。よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、学校教育の始まりである幼稚園において、幼児期にふさわしい生活をどのように展開し、どのような資質・能力を育むようにするのかを教育課程に明確にしなが、社会と連携及び協働によりその実現を図ることが示された。

さらに、令和 3 年度・4 年度、中央教育審議会初等中等教育分科会の「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」において、幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園の教育及び保育と小学校教育との円滑な接続を図る上で、幼児教育を行う全ての施設におけるキーワードとして「社会に開かれたカリキュラム」と示された。「教育課程」から「カリキュラム」に言葉は変わっても、幼児期の教育・保育を通してよりよい社会を創るという理念に変わりはない。

しかしながら、幼児期の教育及び保育の基本である「遊びを通して総合的に学ぶ」という幼児期の学びの特性は見えにくく、未だに、早期教育や小学校教育の前倒しと誤解されることも多い。小学校以降の教育を見通して幼児期の教育及び保育の充実を図ることと、前倒しをして行うこととは違うことを認識する必要がある。

各幼稚園・保育所・認定こども園が、幼児期の教育・保育の基本に基づいてどのような生活を展開し、どのような資質・能力を育てているのか、社会と共有し、「社会に開かれた幼児教育施設づくり」をしていく必要がある。

そのためには、幼児期の教育・保育の基本をいかに「見える化」するかが課題である。「情緒の安定の下、乳幼児期にふさわしい生活を展開すること、遊びを通して総合的に指導すること、一人一人に応じた指導を行うこと」という幼児期の教育・保育の基本を通して幼児教育の重要性を保護者、地域、学校教育関係者、そして社会全般に発信し、相互に理解することが求められる。

こうした各園における教育・保育を「見える化」し発信する上で、この事例集をぜひ参考にいただき、さらに各園において創意工夫を図られることを期待する。

そして、「子ども主体の質の高い教育・保育」の実現を通して、全ての幼児教育施設における子供のウェルビーイングが高まることを望みたい。



令和4・5年度愛知県幼児教育研究協議会委員名簿

(敬称略)

選任区分	氏名	職名	年度
学識経験者・ 一般有識者	津金美智子	名古屋学芸大学教授	4 5
	鈴木照美	椋山女学園大学非常勤講師	4 5
市町村 関係者	宮島年夫	大府市教育委員会教育長	4
	増岡潤一郎	みよし市教育委員会教育長	5
	笹口真	名古屋市教育委員会指導部指導室長	4
	小島治彦	名古屋市教育委員会指導部指導室長	5
	永井悦子	名古屋市子ども青少年局保育部主幹	4 5
	板倉宏幸	高浜市こども未来部こども育成グループグループリーダー	4 5
幼稚園・ 保育所及び 学校関係者	竹内由紀	愛知県国公立幼稚園・こども園長会長(半田市立成岩幼稚園長)	4
	池田紀代美	愛知県国公立幼稚園・こども園長会長(名古屋市立第一幼稚園長)	5
	水越省三	愛知県私立幼稚園連盟副会長(葵名和幼稚園長)	4
	村上芳枝	愛知県私立幼稚園連盟副会長(ベル豊田幼稚園 統括園長)	5
	伊東世光	愛知県社会福祉協議会保育部会部会長(R4)、副部会長(R5)(名古屋市天使保育園長)	4 5
	宇都宮美智子	名古屋民間保育園連盟副会長(名古屋市 中村保育園長)	4 5
PTA 関係者	山本武志	豊橋市立八町小学校長	4 5
	榊原智寛	愛知県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長(名古屋市立第一幼稚園)	4
	大平玲緒奈	愛知県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長(名古屋市立第一幼稚園)	5
	遠藤結衣	愛知県私立幼稚園PTA連合協議会会長(R4.6~R5.6)(栄和幼稚園)	4
	林健二	愛知県私立幼稚園PTA連合協議会会長(R5.7~R6総会)(名古屋柳城短期大学附属柳城幼稚園)	5
	杉浦芙実	一宮市立大和北保育園保護者の会会長	4
県関係者	飯田愛美	一宮市立丹陽西保育園保護者の会会長	5
	横井純	愛知県福祉局子育て支援課長	4
	今宮裕司	愛知県福祉局子育て支援課長	5
	藤井徹	愛知県県民文化局県民生活部学事振興課私学振興室長	4 5

専門部会委員名簿

(敬称略)

選任区分	氏名	職名	年度
学識経験者・ 一般有識者	鈴木照美	椋山女学園大学非常勤講師	4 5
	栗木節子	修文大学短期大学部准教授(R4)、教授(R5)	4 5
幼稚園・ 保育所及び 学校関係者	池田紀代美	名古屋市立第一幼稚園長	4
	室田ひふみ	名古屋市立高田幼稚園長	5
	福庭千晶	知多市立梅が丘幼稚園長	4 5
	神谷幾子	高浜市立高浜南部幼稚園長	4 5
	大谷喜久子	愛知県私立幼稚園連盟常任理事(みちる幼稚園長)	4
	足立正和	愛知文教女子短期大学附属一宮ひがし幼稚園長	5
	野村真美子	常滑市立三和西保育園長	4
	大久保真紀	常滑市立常滑幼稚園長	5
	河野妙	豊田市立ひかりこども園長	4 5
	阿部良子	レイモンド庄中保育園長	4 5
	伊藤圭樹	北名古屋市立師勝小学校長	4 5
	上田富喜子	西尾市立花ノ木小学校長	4
	清松治子	岡崎市立広幡小学校長	5
県関係者	山本宗雄	愛知県教育委員会生涯学習課主席社会教育主事	4
	高井規行	愛知県教育委員会あいちの学び推進課主任社会教育主事	5

令和5年度
幼児教育における「社会に開かれたカリキュラム」の実現をめざして
～幼児期に育みたい資質・能力の理解に向けて～
事例集

令和6年3月発行
愛知県幼児教育研究協議会
愛知県教育委員会
(事務局)
愛知県教育委員会義務教育課
〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 052(954)6799 (ダイヤルイン)